

Ikiiki  
Maebashi  
Jin



## 東京五輪目標に世界へ



競泳で全国優勝  
高橋 洸輝さん・15歳  
総社町桜が丘

8月に高知県で開催された全国中学校体育大会に出場。競泳男子1,500m自由形で15分47秒89のタイムで優勝を果たした。

「決勝のスタート台に立つと、家族や仲間からの熱い声援で力がみなぎりました。期待に応えたいという一心で泳ぎきったら、最高の結果が待っていました」

現在は六中の3年生。学校が終わると毎日近所のスイミングスクールで8,000m程度泳ぎ込む。

「この競技はいかに楽に同じペースで泳ぐかが鍵です。距離を泳ぐことでペースを保つことを覚え、同時に体力をつけるメニューが今の練習の

中心です」

憧れの選手はロンドン五輪銅メダリストの萩野公介さん。「多くの種目にチャレンジする姿勢が魅力」と語る。両親が水泳をやっていたこと

もあり、家族で一致団結して東京五輪を目指して戦っている。

「身長が伸びるにつれて記録も上がってきています。水泳は上達が記録ではっきりと

分かるスポーツです。手ごたえを感じながら練習ができるので、達成感がありますね」

「水の中という非日常の環境でライバルと競い合うことが魅力」と水泳の楽しさを表現する。周りの支えを受け、大好きな水泳で世界へ羽ばたこうとしている。



## 濃霧の中熱いレース

赤城山大沼湖畔で8月31日、あかぎ大沼・白樺マラソンを開催しました。1周5kmの大沼を周回するコースは、高低差30mのアップダウンの繰り返し。この日は深い霧に覆われましたが、県内外から2,400人もの参加者が集まり熱いレースを展開しました。



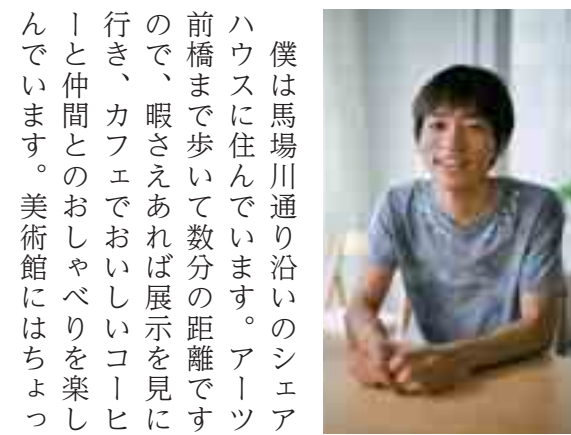
## 日本製糸業の先覚者から学ぶ

8月30日、群馬会館で文化講演会「日本製糸業の先覚速水堅曹を語る」を開催しました。東京大名誉教授の石井寛治さんが藩営前橋製糸所と速水堅曹が進めた製糸業の生産・流通過程の改革などについて講演。日本製糸業の近代化の歩みについて知識を深めました。



## 創造性と技術を競い合う

8月23日、総合福祉会館でサンデンまえばしロボコン2014を開催しました。自作のロボットでアイデアや技術を競うこのコンテストに、県内外から174チーム約440人が参加。創意工夫を凝らしたロボットの動きと参加者の真剣な様子に、会場は興奮に包まれました。



岡田 友大さん・23歳

この連載では、市民に寄稿してもらい、さまざまな角度でアーツ前橋を紹介します。第5回はワークショップ参加者の岡田友大さんです。

## アーツが日常生活の一部に

僕は馬場川通り沿いのシェアハウスに住んでいます。アーツ前橋まで歩いて数分の距離です。暇さえあれば展示を見に行き、カフェでおいしいコーヒーと仲間のおしゃべりを楽しんでいます。美術館にはちょっと堅苦しいイメージを抱いてしまいがちですが、アーツ前橋は僕の日常生活に溶け込んでいるように思います。

問い合わせは  
アーツ前橋 ☎027-230-1144



ここに住んでいると、アーツ前橋の学芸員や作家たちと接する機会がたくさんあります。6月下旬から7月上旬までにかけて、アーツ前橋で行うワークショップを手伝いました。七夕まつりの時期に合わせて、アーツ前橋の壁面にはアルミホイルで作られた「カイコガ」が飾られていました。これは9月15日まで開催していた「プレイヤーズ遊びからはじまるアーツ展」の出品作家である三家俊彦さんが、市民と一緒に制作したものです。三家さんと一緒にいると、作品に対する強い思いが感じられたり、何気ない会話の中での素の一面が見られたり。今までになかった楽しく刺激的な時間を過ごすことができました。